



多古町ゼロカーボンシティ宣言

近年、地球温暖化の進行に伴い、猛暑や集中豪雨などの気候変動による影響が全国各地で深刻化しています。本町においても、農業への影響や自然環境の変化、災害リスクの高まりなど、気候変動は私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

地球温暖化への対応が世界共通の喫緊の課題となっている中、2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書においては、「気温上昇を1.5度に抑えるため、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにする必要がある」ことが示されました。

本町は、豊かな田園風景や里山、栗山川をはじめとする貴重な自然環境に恵まれています。このかけがえのない地域資源を未来の世代へ引き継いでいくためには、今を生きる私たちが責任を持って行動していかなければなりません。

今後、圏央道の開通や成田空港第2の開港プロジェクトなど、本町を取り巻く環境は大きく変化していきます。こうした変化を好機と捉え、地域の発展と脱炭素社会の実現を両立させる「グリーントランスフォーメーション（GX）」を推進していくことが重要です。そのために、再生可能エネルギーの導入促進、徹底した省エネルギー対策、公共交通の充実、そして、環境に配慮した農業の推進など、町民・事業者・行政が一体となった取組を進めてまいります。

多古町は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことをここに宣言します。



令和8年（2026年）6月3日

多古町長

平山富子